



能登町民憲章

わたしたちは、美しく豊かな自然の中で、健康で潤いのある生活を営み、先人の築いた文化と伝統に誇りをもち、一人ひとりが希望と愛着を持って、さらに住みよい町を築くため、この憲章を定めます。

一、土と水を愛し、安らぎのあるまちにしましょう

一、健康で、心のふれあいを大切にするまちにしましょう

一、働くことに感謝し、創意と工夫で活力あるまちにしましょう

一、歴史に学び、スポーツと文化を育むまちにしましょう

一、能登町に誇りをもち、世界と未来にひらけるまちにしましょう

平成 18 年 9 月 1 日制定

能

登町総合計画は、町の最上位計画として、長期的な視点から町の将来ビジョンを描き、「能登町の新しいまちづくりの指針」となるものです。合併協議会において策定された「能登町まちづくり計画（新町建設計画）」の理念を発展的に継承しつつ、施策のより具体的な内容を示す計画として位置づけられます。

この総合計画は、平成17年7月から計画策定委員会で立案され、3人の公募委員を含む15人で構成する能登町総合計画審議会で審議されてきました。その間、施策アイデアや※パブリックコメントを募集したり、広報・ホームページで情報を開示するなど、その策定過程を公開してきました。（※町政への住民参画を推進するために、重要な計画や条例などなどを定める際、広く町民から意見や情報を求める制度）



一歩前へ進むまぢづくり

能登町総合計画基本目標

9

月4日、第6回審議会が開かれ、11日には松本博会長から持木町長へ最終案が答申されました。審議会からの答申を受けた持木町長は、9月議会最終日に追加議案として総合計画を提出、議会の議決を受けました。

今回策定された総合計画（計画期間10年間）をもとに、今後、各分野別施策や個別事業の詳細な計画を立案・実践することにより、将来像である「奥能登にひと・くらしが輝く ふれあいのまち」の実現に向けたまちづくりを推進していきます。

次ページでは、特に重点的・横断的に取り組む「5つの重点プロジェクト」を紹介します。



Project 1 人づくり

～住民協働で人とまちを育てる～

【主な事業】
地域に根ざした学校教育や生涯学習を推進し、町を支え愛する心豊かな人材の育成を目指す。

また、住民・企業・行政の協働によるまちづくりを目指し、まちづくり、福祉、生涯学習、自然環境の管理など、さまざまな場面におけるボランティア・NPOなどの積極的な活動や、民間活力の導入を推進します。

情報教育、環境教育、ふるさと教育、食育の推進、学校・家庭・地域の連携、生涯学習施設の整備、まちづくり出前講座の推進、伝承講座の開設、郷土芸能発表の場の整備、まちづくり推進協議会(仮称)の設置、ボランティア・NPOの支援体制の整備、人材交流の実施

す べての住民が安心して生活できるような、医療体制の充実を図ります。また、少子化や女性の社会進出が進む中、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを目指します。高齢者に対しては、地域支援事業を推進するとともに、就業やボランティア、地域活動など、生きがいを持って活躍できる機会を提供していきます。

【主な事業】
医師・看護師の確保、学童保育の充実、保育サービスの充実、児童館等活動の充実、地域包括支援ネットワークの構築、介護予防ケアマネジメント業務の推進、包括的継続的ケアマネジメント支援業務の推進、高齢者の地域活動や社会参加の促進、行政サービスのIT化

Project 2 福祉充実

～少子・超高齢社会も安心して暮らせるまちへ～

Project 3 定住促進

～就業機会の充実 & 田舎暮らしのススメ～

若 者の定住やU・イーターンを促進するため、新たな企業の誘致や既存産業への支援などにより雇用を創出するとともに、起業活動の支援や海洋深層水の活用により、産業の活性化を図ります。

また、Uターン・イターン希望者に対して、求人や住宅情報を発信し、町外からの転居を積極的に推進します。

【主な事業】
商工会および中小企業の支援、企業等立地の促進助成事業、起業支援制度の設置・運用、産業資源としての海洋深層水の活用促進、空き家の利活用の推進、能登町の暮らし促進事業の推進、U・イーターン草の根運動の推進

町 内外の交流を促進し、生活や産業の利便性を高めるため、道路網や通信網を充実するとともに、能登空港の有効活用を図ります。また、豊かな自然や地域文化を活かした体験交流観光や観光施設の充実により、町外との交流を促進し、賑わいや活力の向上を目指します。

【主な事業】
国道249号、珠洲道路、主要道路へのアクセス道路の整備促進、通信インフラの高度化、地域情報通信基盤の整備、国内交流首都圏誘客促進事業の支援、各種観光施設の機能拡充、紅葉植樹事業の推進、参加型イベントの充実、体験交流施設の機能充実、修学旅行・合宿の誘致、民有歴史文化資産の保存・活用

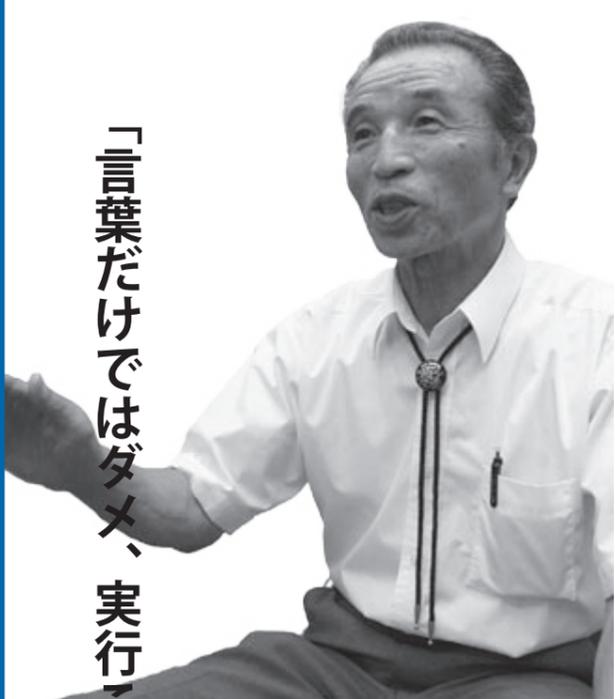
Project 4 交流拡大

～交通通信網と地域資源の活用で賑わいを創出～

自 然と共生するまちづくりを目指し、地産地消を基本として、いしりや日本酒などの発酵文化の伝承や付加価値の高い特産品の開発・販売により、町の魅力を町外にアピールしていきます。

また、省エネルギーやリサイクル活動、新エネルギーの導入を推進し、家畜排泄物や水産加工残渣などを発酵してエネルギー化するバイオマスプラントの整備を進めます。

【主な事業】
地域ブランドの確立、発酵文化の伝承、能登杜氏の情報発信、特産品開発の推進、地場産農産物の消費拡大、間伐材利用の促進、バイオマスの事業化検討調査、施設整備の推進



「言葉だけではダメ、実行こそ大切」

能登町総合計画策定にあたり

総 合計画審議会委員は、将来のまちづくりに確固たる信念を持たれた3人の公募委員の方々ははじめ専門的知識と実績をお持ちの各界の代表の方々に構成され、それぞれに能登町の10年後に向けてすばらしいご意見をいただきました。私たち委員は、合併時に町民合意で作られた「能登町まちづくり計画」を基本に、「能登町の未来を語る」の未来を語る「会」での多様な意見を参考にしながら作

業を進めました。合併して約1年半、合併への期待、生活に直結した意見や要望がたくさん出され、「合併しただけであるう、良くなるであろう」と思っていた生活の実感がまだ見えてこない」ということを審議を進めていく中で感じました。財政構造の健全化、少子化対策、福祉の充実、産業の振興、交通網の整備、自然環境の保全等々、多様な課題を抱える中で、総合計画では全てを網羅した形となつていきます。

この計画の中から、何に重点を置き、何から取り組むべきか、そしてどのように実現していくか、町民全ての協力と行政・議会のリーダーシップを期待したいと思っています。会議の中でもよく出た言葉ですが「言葉だけではダメ、実行こそ大切」。プロジェクトチームの立ち上げなど、横断的な官民協働の積極的な取り組みと、企画力・実践意欲こそ大切だと思っております。

合 併して誕生した能登町がこれからのような町づくりを進めていくのかを示すため、総合計画の策定に取り組みました。それぞれに多忙な中、11カ月6回にわたって熱心なご審議をしていただいた15人の審議会委員の方々には心から感謝を申し上げます。

私は今回の計画づくりにあたって、一人でも多くの町民のみなさんにいろいろなかたちで参加していただき、ご意見やご知恵を賜りたいと考えていま

した。初めて試みた審議会委員の公募やパブリックコメント募集、審議会でのやりとりを町のホームページで公開するなど、まさにそのためであります。総合計画では、町の基本目標を「一歩前へ進むまちづくり」とし、行政はもろろん町民一人ひとりが主体となり『何をすべきか』『何ができるか』を共に考え、知恵を出し合い実行していくことを「まちづくりの基本姿勢」としています。常々、私は「協働のまちづくり」ということを提唱している

「町民、行政の力を結集したい」

訳ですが、「協働」とは「違う力を組み合わせる」ことにより、飛躍的な活力を生み出す作業」であります。

町民のみなさんと私たち行政がそれぞれ持っているいろいろな力を結集して、この計画書に描かれた夢の実現にまい進して行きたいと思っておりますので、町民のみなさんには引き続き積極的なご参加とご支援をお願いしたいと思います。



能登町長 持木一茂